



ヨ - ロ ッ パ 旅 路

丹 羽 恒 夫

30. ザールブリュッケンにて

D - 144列車はザールブリュッケン (Saarbrücken) に午後8時40分についた。勿論あたりはすっかり暗くなって居り、駅前もあまり明るくない。

駅より200m位さきに電車通りがあり、電車を待っているおばさんにホテルの場所への道順をきいたら、そのホテルの名前は違っている、こういう名前だと云う、そこで道を教えてもらい電車に乗ってゆくこと10分位でおろされる。店は勿論しまっているし、住宅街は何かとみえてショーウィンドーもすくない。ややしばし歩くこと5分位でた手に目的のホテルの明りが見えるのでほっとする。うらさびれたホテルで、入ると若い娘とおばさんが出て来て名前を云うとあげてくれる。よくきくと吾々がウエツラーでホテル名簿で調べたときは、御亭主の名前をとったホテル名で出て居り

それで申し込んでおいたわけであるが、この地へ来てみると奥さんの名前をホテル名にしているのがわからなかったわけである。

二階の室に案内されたが、室は大きいが大分古びて居り、よく中世の絵に出てくる馬車駅を思い出す。

石炭の町らしく大きなガスストーブで火を付けて、あとの使い方を早口で説明されたが、方言も入っているようで、よくわからないが、わかったと云うことで明朝は早く起してくれるよう頼み早々に御退散願うこととする。

1階の食堂兼ホールで食事をしたが、国境の町らしくホールの片隅には遊技場があり数字あわせや、スマートボールに似て自分で玉の入れ方を操つるパチンコのたぐいがある。宿の主人はアル中気味でウイスキーを飲みながら奥さんより金をもらいながら、このパチ

ンコ類をやっている。むこうでは定連らしい人も居てテレビを眺めている。

翌8日朝早く暗いうちに目ざめた途端にノックあり頼んでおいた起床時間のお知らせである。朝食を早々にすませ7時57分ザールブリュッケンをあとに逆戻りし準急E-621列車ストットガルト行で次の目的地であるツワイブリュッケンに向う。

31. パールマン社 (Ludwig Pallmann K. G.)

ツワイブリュッケン (Zweibrücken) に8時38分に着く。この町は人口4万位の小さな町であるが中々活況を呈しているようで、私が訪問したパールマン社の社長の話によるとこの町は爆撃で全部やられてしまい終戦後、皆が一致協力してこれまでに復興したのであると云っていた。

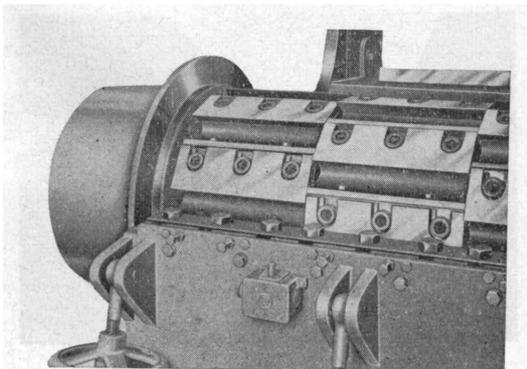
パールマン社は粉碎機のメーカーで昭和27年日本で始めて林業指導所繊維板工場にバツフルプレートミルを入れて居り、又最近では林業指導所のパーティクルボード工場にパールマンチップパーPZ型を入れているおなじみの所である。

同社につくと社長が待っていてくれ自ら案内して頂いた。粉碎機のメーカーとしてプラスチック原料粉碎関係も多く、粉碎機を作りながら且つ、試験的かも知れないが、プラスチックメーカーに原料を粉碎してやっている。

自分の所の製品を作るときに小型のものを造り研究しているようで、顧客より原料をもらい、それに合う機械をきめらしく、その機械で種々試験してもらった。

まず単板野引屑の写真をみせてこれをパーティクルボードの原料とするときどんなチップパーがよいか聞いたところ、現在ある3種のチップパーで試験してくれた。

(1) パールマングラニューレーター (Pallmann Granulator) この機械は写真に示す通りで、単板屑又は薄板を粗砕するのに用いられ厚み5 mm迄使用できる。シリンダー型で本来はプラスチック用機械であるが、フランスの会社でベニヤ屑の処理に使用して



パールマングラニューレーター

パールマングラニューレーター諸元

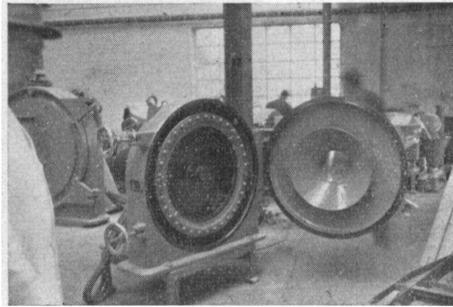
型 式	項 目	PS4-2 $\frac{1}{2}$	PS 4-5	PS4-7 $\frac{1}{2}$
ローターの直径		400 mm	400 mm	400 mm
ローターの長さ		250 mm	500 mm	750 mm
ローターナイフの数		9	18	27
固定ナイフの数		6	12	18
モーター馬力		5.5 KW	11 KW	22 KW
回 転 数		750 rpm	750 rpm	750 rpm
重 量		540 kg	860 kg	1200 kg

からベニヤ層用にも用いられる。そのスタンダードとして上表の3種ある。

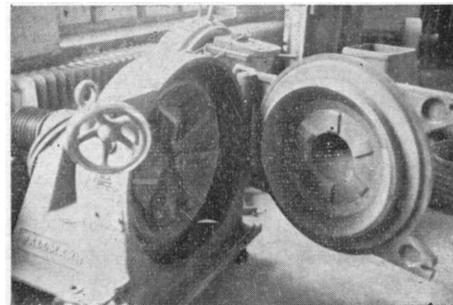
これによってカキモチ状に粗砕されたものをパールマンPZ型もしくは次のPP型で削片化するのである。

(2) パールマンチップパー PZ型 (Pallmann Chipper PZ)

これについてはすでに林業指導所にあり、本誌でもおなじみのものなので省略する。



パールマンチップパー PZ型



パールマンターボデザインテグレーター

(3) ターボデザインテグレーターPP型

(Pallmann Turbo-desintegrator, PP)

歯牙型チップパーに属するもので、セグメントとバツフルの間で破碎される。Pallman氏の説明によると皮とか砂の入ったものを破碎してもナイフを使用するものにくらべ刃がいたまないから、砂を入ったものをやっても、2、3日して刃をとぎかえればよいと云っていた。説明によると製材屑、合板単板屑、剥皮工程より出てくる木屑等何でも良いとの事である。単板屑

を試験してみたが、なかなか良いようで単板の野引屑等にはコア材料として特に良いと思われる。

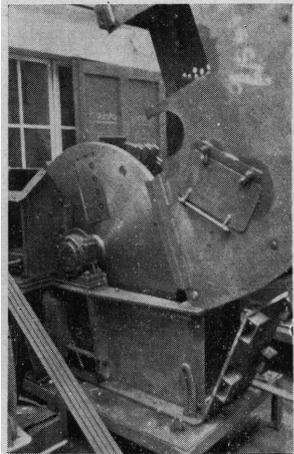
(4) ハッカー (Pallmann Universal Hacker)

これはいわゆるパルプチップperのようなもので、単合板屑、製材屑何でも粗砕可能で、デスクの裏にハンマーが回転して居りチップを更に粗砕するようで、このあとにパルマンチップper PZ型をつければよいとのことである。この機械の諸元は次の通りである。

パルマンユニバーサルハッカー 諸元

デ ス ク 径	47"
投 入 口 の 大 い さ	10' × 6'
能 力 (2~1/2' の chip)	2 ton/hr
ナ イ フ 数	2
重 量	3500 Lbs
ベ ー ス 面 積	8' × 3'

社長は非常に熱心な人で自分から案内し、又実験には自分で指図をして行ってくれた。終ってから昼食を御馳走になりながらいろいろ話をした。保坂さん(元指導所化学部長、現北海道木材化学会社製造部長)の話がでる。保坂さんはここに4、5日滞在し、附近の



パルマンユニバーサルハッカー

工場を見たそうである。

午後12時43分ツワイブリュッケンに名残りをつけて車上の人となる。

32, バイエルスブロンへ

12時43分発急行D - 131列車でカールスルーエにむかう。途中広葉樹の林の山の中を抜けて列車はすすみ、午後2時32分カールスルーエに到着する。

1時間位待ち合せの後午後3時48分発3932列車で本日の宿泊地バイエルスブロン (Baiersbronn) にむかう。この列車はレールバスみたいな事で気動車 (Triebwagen) と云い、天井の比較的低い車である。

途中有名な森林地帯シュワルツワルド (黒林, Schwarz wald) を通ってゆくのであるが始め出発した時はお客がパラバラ乗っていたが、近くの駅で皆降車してしまい、殆んどお客さんがなくなってしまう。

ラストット (Rastadt) をすぎると単線区間でここ

から前述のシュワルツワルドの中を通るのであるが、途中パルプ工場が多く、又急流が流れている渓谷沿いに走ったりするので景色はよいが大分薄暗いので、はっきり見えない。途中大きな工場のある町にとまった所ドヤドヤと若い高校生位の連中で列車は満員となってしまふ。聞くところによるとドイツの学生は学校の間にある期間実際の工場で訓練を受けるそうで、その工場も実習の指定工場らしく、訓練生の退勤時間とかち合ったわけである。又途中でこれら学生はポツポツと降り、目的の Baiersbronn に午後6時13分到着のころは殆んど居なくなり、他の客と変ってしまい、座席もあちこちにパラバラと埋まっているだけである。



気動車内部 (写真は筆者)



索引車で野菜を運搬する農婦 (駅構内停車中の気動車より写す)



ラストット 駅構内
- 林指合板研究室 -